

# 総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成29年度)

## 2. 分野等別状況 (2)地域活性化総合特区 ①グリーン・イノベーション分野(8/9)

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ 目標に向けた取組の進捗	Ⅱ 支援措置の活用と地域独自の取組の状況	Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
たたらの里山再生特区(雲南市)	3.2	3.3  <b>進捗度</b> ・人口の社会動態 13%  ・まちづくり活動に参画する市民の割合 97%  ・市民参加型林地残材搬出量 87%  ・コミュニティビジネス売上高 80%	2.8  <b>規制の特例等</b> ・農地取得に係る下限面積要件の緩和 等  <b>地域独自の取組</b> ・森林バイオマスエネルギー事業運営業務委託  ・地域づくり活動等交付金 等	3.3	<p>「たたらの里山」の未利用資源を活用し、市民主体により中山間地域の困難な地域再生の課題に継続的に取り組んでいる。</p> <p>・関係人口というサブ指標を取り入れたことが評価される。関係人口の裾野を広げる方策や、関係人口を定住人口につなげる具体的な取組の推進に期待したい。(ただし、評価指標(1)人口の社会動態の進捗度(%)の算定方法が十分には理解できなかった。)</p> <p>・バイオマスエネルギーに関する評価指標(2)は、目標は達成できていないまでも、関連した事業とともに着実に進展しているといえる。課題は、地域が有する里山・バイオマス資源を如何にしてコミュニティビジネスや市民参加、人口増加につなげていくかであり、そのためにはこれまでとは異なるインパクトのある事業を考案・実施していくことが必要であると考えられる。</p> <p>・まちづくり活動へ参加する市民の割合、市民参加型残材搬出での着実な進展は評価されるものの、コミュニティビジネスや、人口定着等につながっていないことは、新たな取組の見直しが必要とも考えられる。</p>